

問1 水が目に見えないすがたに変わったものを何といいますか。

問2 水が空気中に出ていく量と、水を置く場所のあたたかさ（温度）には、どのような関係がありますか。

問3 水を入れたコップにふたをしておくと、中の水の量がほとんど減らないのはなぜですか。

問4 水を熱し続けたときに、入れ物の中の水が減っていくのはなぜですか。

問5 水がふっとうしているとき、水の温度はおよそ何℃になりますか。

問6 しめった地面がかわいていくのは、地面の中の水がどうなるからですか。

問7 水が空気中に出ていって、水じょう気になることを何といいますか。

問8 水を熱し続けて、水がふっとうしている間、水の温度はどのように変化しますか。

問9 次のうち、目に見えない「気体」のなかまはどれですか。

問10 熱せられた水が100℃近くになり、さかんにあわを出しながらわき立つことを何といいますか。

問11 水じょう気が空気中で冷やされて、目に見える小さな水のつぶになったものを何といいますか。

問12 水が温度によってすがたを変えると、気体の状態になっているものの名前は何ですか。

問13 水が凍り始めてから、すべての水が完全に凍ってしまうまでの間、温度はどのようになりますか。

問14 水蒸気が液体である水に変わるのは、水蒸気をどのようにしたときですか。

問15 プラスチックの容器に水をすき間なくいっぱいに入れて、冷凍庫で凍らせると、容器や氷の様子はどうなりますか。

問16 水がふっとうしているとき、水の中はどのような様子になりますか。

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 水じょう気	水が目に見えないすがたに変わったものを水じょう気といいます。
問2	答え 置く場所があたたかいほうが、水が空気中に出ていく量が多くなる。	水は、置く場所があたたかい（温度が高い）ほうが、空気中に出ていく量が多くなります。
問3	答え 水が空気中に出ていかないから	ふたをすることで、コップの中の水が空気の中に出ていくのを防ぐため、水の量はほとんど減りません。
問4	答え 水がじょう発して空気中に出ていくから	水がじょう発して空気中に出ていくことで、入れ物の中の水は減っていきます。
問5	答え 100℃近く	水がふっとうしているときの温度は、およそ100℃近くになります。
問6	答え 水じょう気になって空気中に出ていくから	地面がかわくのは、地面の中にある水が水じょう気に変化して、空気の中に出ていくためです。
問7	答え じょう発	水が水じょう気になることを「じょう発」といいます。じょう発は、水面から少しずつおこります。
問8	答え 100℃近くのまま上がらなくなる	水がふっとうしている間は、熱し続けても温度は100℃近くのまま上がらなくなります。
問9	答え すいじょうき 水蒸気	すいじょうき 水蒸気は目に見えない気体です。湯気や水は目に見える液体で、氷は固体です。
問10	答え ふっとう	水が熱せられて100℃近くになり、さかんにあわを出してわき立つ現象を「ふっとう」といいます。
問11	答え 湯気	水じょう気が空気中で冷やされて、目に見える小さな水のつぶになったものを湯気といいます。
問12	答え すいじょうき 水蒸気	水が気体の状態になったものを「水蒸気」といいます。氷は固体、水は液体の状態です。
問13	答え 0℃のまま変わらない	水が凍り始めてから全部凍るまでの間、温度は0℃のまま変わりません。
問14	答え 冷やしたとき	気体の水蒸気は、冷やすことで液体である水に戻る性質があります。
問15	答え 氷の体積が大きくなって、容器が外側にふくらむ	水が氷になると体積が大きくなるため、容器いっぱいの水が凍ると、大きくなった分だけ容器を外側に押し上げます。
問16	答え さかんにあわを出しながらわき立つ。	水がふっとうすると、温度が100℃近くになり、さかんにあわを出しながら激しくわき立ちます。